

平成13年10月(2001年)No. 430

OMC映像フェスティバルを成功させよう 観客動員にご協力ください

来る10月21日(日曜)のOMC映像フェスティバルは第41回を迎え、阿倍野市民学習センターで13時より開催されますが、丁度、秋の運動会やら祭りやらの行事その他行楽シーズンでもありますので、観客動員に影響するのは、という懸念もあります。また、あいにく神戸の映像発表会と重なってしまった不運もあり心配しておりますが、伝統ある我がOMCの発表会は、例年に負けず盛会であってほしいと願っています。会員諸氏のお知り合い、ご家族と子ども一人でも多くの方へお誘いをしていただきたく思います。プログラム必要な方は会長までお申し出ください。

有意義な作品研究会、でも見直しの時期か

例会では、時間的に1本1本の作品について十分な助言や意見の交換など無理ですが、作品研究会の方は十分な時間がとれますので、すこしでも作品の質を高めたい作品、特にどこかのコンテストに応募したい作品や発表会へ出したい作品など、いろいろな人の意見や助言を得る場として有意義な存在になっています。ですが、マンネリ化の傾向になってはいないか、例会と合わせて長時間はしんどいという声もあり、来年はどうするか見直しが必要とも考えます。適当なテーマや場所があればミニ撮影会ももっとやりたいとは思いますが、皆様のご意見をお待ちしています。

10月例会と作品研究会のお知らせ

第3土曜日(20日)です。お間違いなきよう

第4土曜日は会場の阿倍野市民学習センターが、オータムフェスティバルの催しのため、会場を貸してくれませんので、止むを得ず第3土曜20日になっています。作品研究会は13時30分より例会は18時より行いますのでどうぞお集まり下さい。季節もよくなりましたので撮影へ出掛けた人も多かったと思います。研究会は未完成作品も歓迎です。まとめ方について助言が欲しい方など是非作品をお持ち下さい。例会と子ども多数のご参加をお待ちしています。

9月作品研究会のレポート

3ヶ月ぶりに行われた作品研究会は、13名の参加と8本の作品が出品され、1本1本たっぷり時間をかけての意見交換や助言があり、有意義なひと時を過ごすことが出来ました。

出席者：江村、河合、江藤、有村、合原、関、華岡、玉井、前田、那須、安居夫妻、増池（以上13名、敬称略）

上映作品：

「**奇妙な光景**」 **増池さん** **5分30秒**
大阪天満宮境内で行われた全国チンドン屋博覧会イベントの記録。色とりどりの非現実的な彫像を主体に描かれたもので、イベントの一環がよく判りました。

「**HELP**」 **安居(利)さん** **3分30秒**
増池氏と同じチンドン博で撮影された素材をメインにして、その他の映像もまじえて創作された作品。不気味な音楽を使い、スローモーションなどの特殊表現を使った意欲作で、増池作品と比較して何かと話題性に富んだ作品で楽しく拝見しました。

「**ネパール紀行・心に残る人たち**」 **有村さん** **9分33秒**
ネパール紀行シリーズの第1作ですが、どうしても気に入らないと持参されたもの。作品としてはよくまとまっておき、立派な作品でした。ですが、題名から受ける感じと映像から受ける印象とが微妙なズレがあり、この点についての意見の交換がはずみました。みしろ、「心に残る原風景」の方が作者の云いたいことが現れているものではないか、という意見に絞られました。

「**老街**」 **関さん** **8分20秒**
OMC映像フェスティバルでの発表作品で、OMCでは初公開。珍しくナレーション入りの記録ものでHi8で撮影された由。中国の古都でのテレビ番組撮影風景を珍しく拝見。

「**弥勒菩薩を彫る**」 **那須さん** **12分**
以前、発表された「観音像を彫る」の姉妹編のような作品で、前回の主人公だった先生のお弟子さん（女性）が彫る過程を記録したもの。いいBGMが使われており、雰囲気盛り上げていました。主人公の私生活や手を休めたときのインサートカットがあればドキュメンタリー作品として良い作品になるのでは、という構成の話題がつきませんでした。

「**保津川下り**」 **合原さん** **8分40秒**
映像作家連京都総会後の撮影会で撮られたもので、顔見知りの方がいろいろ出てまいります。ノンナレなので、ビデオカメラを持った一団の説明が、一般の人には判らない等の意見が出されました。

「**佳奈ちゃん、雄大くん、2001年夏休み**」 **合原さん** **10分**
とうとう会長もノンリニアを始められたか、と、ある種の溜息がが出そうな出来事ですが、これはノンリニア練習のためにつくった作品。

「**再生**」 **江村さん** **11分55秒**
玄光社の移動撮影機という“新兵器”を使った作品で、大台ヶ原で撮影されたもの。したがって長い移動カットが多く作品も長くなった作者の弁。10何万円もする高価な新兵器、これからどんな活躍をするか、楽しみな話題提供でした。

「カメラテスト」**江藤さん****3分**

ソニー TRV900 のカメラで撮った映像の色が悪いので、カメラの故障ではないかと持参されたもの。オートで撮った夕方の場面でゲインが上がって見づらいところはあるものの、使い方の問題とという結論になりました。マニュアル絞りのことなど研究されますように。

「全国チンドン博物館」**増池さん****6分5秒**

トップに上映した「奇妙な光景」と同じ素材ですが、こちらはチンドン屋さんを中心に据えてまとめられた一般的な作品でした。チンドン博物館の様子がよく理解できました。

来年は福岡で行われるそうです。(富山では毎年行われています。)

9月例会のレポート

さすがに暑かった今年の夏も、9月下旬になるとぐっと涼しさを増してきました。気候も良くカメラ担いで出掛けるのに絶好な季節です。というわけで、土曜日を含めて3連休の初日なので旅行へ行かれた方も多かったのか、若干少な目な集まりと作品数でした。ですが、時間一杯、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。今月の司会は有村氏、書記：安居氏、デッキ係：藤原氏、受付兼照明係：安居良枝さんと増池氏で進行しました。

出席：河合、今井、森口、藤原、西村、森下、金子、上総、進藤、中尾、勝、増池、華岡、有村、安居夫妻、江藤、前田、関、那須、合原、江村、森、以上23名(敬称略)。その他見学者1名、新堂順一さん。

■ 上映作品 (今月の記録と講評担当安居利次世話役です)**1) こいや祭り****増池 茂さん****7分35秒**

「みんなこいや」をキャッチフレーズに高知の「よさこい」や札幌の「ソーラン」につづいて大阪でも始まった若者主体の歌うパフォーマンス大会。第二回は大阪城公園。躍動感あふれる踊り手を正確なタッチで撮っておられます。見ていてすがすがしい感じがしました。足のアップや顔の表情もよく捕らえておられます。ただ音がシーン毎にぶちきれるところが少し気になりました。

2~3 シーン同じ音をベースに絵の方をインサートされるか、音のつなが目をオーバーラップで目立たないようにされるとぐっとよくなるのではないのでしょうか。夜まで粘られるところが増池さんのすごいところです。因みに全体では3時間余お撮りになったとか。

2) マウントクック国立公園**有村 博さん****9分39秒**

山の大好きな有村さんがニュージーランドの秀峰、あこがれのマウントクックに奥様と一緒にいかれた時の一大スペクタクル。南半球のためか明るい山々を眺めながら、ふと足元を見ると岩間から顔を覗かせるエーデルワイスの可憐な花、後半の軽飛行機からの氷河の雄大な眺め、画面に見とれているとアットゆう間に制限時間でした。氷河など見たこともない筆者には1日60cmも動いているとのナレにびっくりするばかりです。機長さんの好意でマウントクックのそばまでいかれたとは本当にうらやましい限りです。軽飛行機からあんな雄大な景色をしかも鮮明に撮ってみたい。とは見ている人皆の思いです。

3) USJにはいかないで**安居 良枝さん****6分55秒**

先ず題名、これなら「はいらんといて!」「入ったらアカン」という意味にとってしまいます。「はいらんと、USJにいったきた」という作者の意図が

伝わってきません。USJから天保山までの船で「三脚につかまらなるとゆれて」というナレも、「撮るのに」という言葉が足りないため「ゆれるのやったら船の柵につかまったらいいのに何で三脚？」と要らぬ疑問をいだかせます。作者の一人合点がいかに通じないかが、わかったようで、題名を変えてナレも全面改訂するそうです。夜のUSJはきれいとの発言もありやり直す気が起こったようです。

4) ちんどん考

安居 利次さん

7分

天満の天神さん境内でおこなわれた第二回ちんどん博覧会の様子をチンドン屋さんの基本形式を少ししゃべることで、“考”の意味を主張したつもりです。前衛の踊りもありました。それに意味をつけようと終わりに再度前衛のカットに効果のフィルターをかけて屁理屈のナレを加えて一人悦に入っていたのですが事前に見た家内がおかしいというので省きました。どうやらそれが正解だったようです。それで家内の作品を事前におかしいといわなかった筆者が“いかん”とって後で責められました。

5) サンモリッツ周辺

那須 典彦さん

6分

「チューリッヒから氷河鉄道で4時間冬季オリンピックが2回も開かれ有名人の別荘が立ち並ぶスイスの高級リゾート地サンモリッツ」とテロップで流せば、司会の山好きの有村さんのいらいらもなかったでしょうに。あまりにもきれいなカットの連続にノンナレで説明もなくBGMだけでは筆者も落ち着かなくてあとでHPで調べました。那須さんの意見、「どうせ言っても見る人はすぐ忘れるから一緒や」も一見そうですが、赤い列車がちらりとみえると「どこやろか」と思うものです。山の名前(有名でないものは)や高さはあまり意味がありませんが、みんなが知っている事と結びつけて説明する努力は必要だと思います。(笑いに包まれた議論でした)

6) 造る

合原 一夫さん

10分

能勢の妙見さんの信徒会館が出来上がるまでを一級建築士の作者の目を通して追った秀作。長期間のカットをどうして拾われたのか後で聞けば初めと終わりは最近、建築中は在職中に撮っておかれたのをつながれたそうです。私たちも材料はあるがどうまとめるかいつも苦勞しています。最近いかれた妙見さんで完成した会館を見て過去に撮ったカットを思い出しこれだけの作品にまとめられる発想力には脱帽です。高垣伸の奇想天外な設計を具体化するため、とび職を初め現場の人たちの打ち合わせ会議のアップカット、建築現場の真剣なボルト締め、過去のカットも編集の方法で全体の流れを盛り上げる材料としてうまく使われていました。NHKのプロジェクトXを見る思いでした。因みに作者のノンリニア第一回作品とのことです。

7) 2001 YOSAKOI

江村 一郎さん

8分40秒

筆者も昨年YOSAKOIに知っているだけに興味深くみました。ハレーションを使った最後はすごくよかった(ちょっと長かったかな)です。「お客さんありがとう」の台詞は去年の「来年また会おうぜ」に匹敵するよい終わり方でした。汗を流して踊る作年の作品とハレーションを利用した今年作品とどちらがいいか意見がわかれました。YOSAKOIを見ているとたった一年なのに全体の雰囲気にもう変化が現れていることに驚きます。徳島の阿波踊りの型を受け継ぐ祭りと時代とともにITのように急激な変化をする祭りを見比べ日本の文化の裏を垣間見たような気がしたのです。

8) 薔薇讃歌

河合 源七郎さん

5分

薔薇の栽培を趣味の一つにしておられるだけあって薔薇についての蘊蓄はさ

すがです。このあたりの薔薇園は世界の趨勢から言うと20年は遅れているとか。十和田湖で撮られた薔薇が普通に見る薔薇と違うという司会の言葉に私たちのよく見かける柵をして一輪づつ咲かしているほうが逆に特殊になりつつあることを教えられました。薔薇ばかりのノンナレで5分持たす秘訣は、よく見ているときれいな薔薇のアップカットが少ないこと薔薇のとげや葉の珍しいアップカットが随所に入れてあることで飽きずに見れたのだと思います。この作品の別バージョンで後でおしゃべりになったことを主軸に「薔薇園変遷記」をつくられても皆なるほどと蘊蓄のほどに感心するのではないのでしょうか。

9) 日光東照宮

森 保信さん

8分16秒

8月の末に撮影された日光東照宮、その絢爛豪華さは正確に撮られたカットから伺うことが出来ます。「日光にいかずして結構というな」三代將軍家光が金に糸目をつけず作らせただけあって装飾の彫刻がすべてすごいです。それを森さんは写真の腕前で私達にわかるように表現されています。有名な陽明門も後半に全容をばっちり撮られていました。私事になりますが、東照宮は別にして冒頭の男体山、中禅寺湖、華厳の滝は40数年前筆者が新婚旅行でいった時の事が思い出され自然はちっとも変わっていないんだと変な安堵感を持ちました。(あの時もどんより曇っていた)

10) マサイ族点描

上総 修一郎さん

8分

豪華客船 飛鳥 による世界一周旅行の途中、赤道直下の東アフリカ、マサイ族を訪ねられた珍しい作品です。先ず圧倒されたのは顔にたかるおびただしいハエの群れ、ひゃーと思いましたがベテランの上総さんはものともせず、アップを撮りつづけられました。その成果はマサイ族の踊りの迫力になって見ている私たちに満足感を与えてくれました。4-5年前に見た同じ踊りの衣装が赤一色だったのに今回はカラフルになっています。こんなところでも女性の衣装に対する自己主張が表れているのにびっくりしました。家はまだ牛の糞を固めた素材のままですが、これを変えれば観光という目玉がなくなるからでしょうか。それにしても珍しい作品、アップで撮っていただいてありがとうございました。

11) 赤いコート

関 剛さん

7分

平成10年度OVCの撮影コンテスト作品をノンリニアで再編集されたもの。同一人物が同じ場面に出てくる3シーンのうちアナログのエフェクターでは出来なかった山門の部分が違和感なく(以前にはすれ違うシーンはなかった)表現出来ていました。それと以前のは赤いコートの女が消えるとき背景が白壁で消え方がぎこちなかったのがPCのクロマキーを使うことによってほぼ完全に疎水の道から消えていました。ノンリニアの効果とフィルターを手にした作者にとってはこういう作品づくりは鬼に金棒と言うところでしょう。私達も「ノンリニアや」といって、単につなぎ目にトランジションをかけるだけなら芸がありません。これを見習ってノンリニアの編集の特質を使えるようにならなければいけないと思った次第です。

以上で例会作品を終わり、2次会場へと席を移しました。今月は珍しく居酒屋組がいなくて全員喫茶店「田園」へと繰り込み、楽しいひとときを過ごし10時頃散会しました。

■インターネット情報

世の中は未曾有の大不況です。半年前までは不況とはいえまだまじだったI

T関連も大不況の波に飲み込まれ、某電機メーカーなど大企業も1万人単位のリストラするとか、新聞を賑わせていましたが、何故かインターネット関連は前向きな記事が多いようです。しかも ADSL 接続料が安くなった・・・、スピードが速くなった・・・等々、ユーザーにとって嬉しい記事が多いようです。総務省は高速インターネットの普及と、接続料の引き下げに躍起になっている様子が手に取るように判ります。お隣の韓国に比べて、我が国はブロードバンドの普及に大幅に遅れをとったことから、官民をあげて取り組もうとしています。

ADSLを主力にあと1年すれば日本のブロードバンドもかなり普及するとは思いますが、肝心のコンテンツはあまり進んでいないようです。いくつかのブロードバンド・コンテンツを観ても映画の予告編みたいな番組が多いし、まだまだの感じがしています。

アマチュア映像関連もまだまだで、個人、ビデオクラブを合わせて20近いサイトがありますが、ブロードバンド映像を配信しているのは、ごく一部です。クラブのサイトの中には、映像は配信されていなくて、写真と解説だけという、インターネット映像の特徴とビデオの良さを無視したようなサイトまであって、ビデオクラブの名前が泣くような実態です。理由はいくつかあると思いますが、

①ブロードバンド映像を本格的に配信するには、プロバイダー（ISP）が大容量のディスクを使わしてくれる必要がありますが、ISPはそこまで使わせない。従ってブロードバンド映像を配信できない。（せいぜい10MB～100MBしか使えない。出来れば500MBは欲しいところ。）

②ブロードバンドを享受できる環境にあるネットユーザーはまだ少ないので、まだブロードバンド映像を配信する機は熟していないと判断している。

③映像をインターネットに載せる技術を習得できていない。

■ウイルス「ニムダ」被害拡大

先月中旬に、各紙一斉に「ニムダ」の被害状況が報道されました。今まででもいろんなウイルスが、登場しては消えていきましたが、今回のニムダは非常に悪質のようです。ウェブサイトを閲覧した個人のパソコンに感染することです。HPを観て感染したのでは、たまったものではありません。HPを観て感染するような悪質なウイルスは、聞いたことがなかったように思います。

①発見方法：PCにウイルス対策ソフトをインストール、ウイルス定義ファイルを最新版に更新する。

②駆除方法：ネットでウイルス対策メーカー（トレンドマクロなど）のサイトからウイルス駆除ツールをダウンロードし、パソコンを修復する。

③予防方法：正体不明の添付付きメールは添付ファイルを決して開かないで、直ちに削除する。

と、ありますが、万一感染した場合は、②の方法はまず無理で、PCをフォーマットして最初からインストールし直す以外方法はないと思います。従って重要なデータファイル（住所録、ワープロ文書ファイル、Excelデータファイル）などは、C:ドライブのMy Documentsに格納するのではなく、D:以下のドライブにフォルダを作成して格納してください。このようにドライブを分けておくと感染した場合にC:のシステムファイル等は全て、削除され更新されますが、D:以下に入れておいた重要なデータファイルは助かることになります。

■今月のインターネット作品

上総さんの「マサイ族 点描」です。スペースの都合で写真は割愛します。ネット版ニュースでご覧下さい。 <http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

641677
2004.11.14